多様性の中の一致：
調和のとれた多文化社会建設の方向性と戦略

マイケル・ボンド

この論文が提起している問題は、社会科学の知識がどのように使われて調和のとれた多文化社会の構築に役に立つかということである。まず最初に、活力ある多文化社会の性格を広範囲に渡って示したい。そのような社会は部分的には方向性によって左右される。方向性とはその構成員が肯定的であれ否定的であれ同じ社会に住む他の人々に対する態度の方向性によって決まるということである。個人の内部においてもまた他のグループとの関係においても差別行為というものはグループや組織や社会の持つ規範、他のグループに対する政策や法律によって可能性が開花することもあれば、畏縮してしまう場合もある。個人のレベルにおいてもまた、社会のレベルにおいても一致を求める力は一つのものになってグループからなる社会の原動力をつくり出して多様性の中の一致を推進するのである。そのような一致は、グループ間の接触等々に十分な注意が払われて初めて豊かなものになるのである。国内レベルのこれらの政策が国際レベルでも応用できるのだ。また、世界的レベルの和を推進して各国家内の多文化主義を強化するようになるかはさらに議論を要する問題である。

注：この論文は1998年にタウル大学で行った基調演説に基づいている。